

コンピュータ沖繩

コンピュータ沖繩(沖繩県うるま市)は、経営を安定させるため、インターネットなどを活用したOAや消耗品の販売事業を拡大するとともに、新規参入したデータセンター(DC)事業を強化する。名護宏雄社長は「売上げの柱である官公庁の入札案件はリスクが

4カ月間で納入する。これまでの最大でも500台だ。理システム)の営業を強化していく。HP制作の実績は県内で50件以上、月に2-3件の獲得を目指す。県内企業向けにパソコン部門を立ち上げ人員を集中的に投入し柱に育てる方針。堅牢な施設を構えるDC事業と異なり、中小企業でも利用しやすい価格に設定する方針。名護社長は「免震構造や補助電源などは備えないが事業継続に向けてデータ分散したいニーズはある」と狙いを語る。

DC事業を柱に育成

人員を集中投入、積極投資

少で減収となるが、利幅の低い入札案件の減少で利益率は改善する見通しだ。少ない案件の中でも明るい話題は那覇市の入札案件を11年10月に獲得できたこと。パソコン1500台を11年11月から2月末までの

に初めて開催した「第1回」をはじめOA機器やパッケージソフト、サプライ用品などを提供するWeb事業部は好調。ネット通販や量販店などにとられていた顧客が戻りつつあるという。11年4月から新規参入したDC事業は4月以降、専

門部を立ち上げ人員を集中的に投入し柱に育てる方針。堅牢な施設を構えるDC事業と異なり、中小企業でも利用しやすい価格に設定する方針。名護社長は「免震構造や補助電源などは備えないが事業継続に向けてデータ分散したいニーズはある」と狙いを語る。同社は浦添市と、うるま市の2カ所にDCを持ち、それぞれを連携させている。先行してお菓子のポルシェ(沖繩県読谷村)のサーバーを11年4月から同社で運用管理しており、本格営業を開始した11年8月からの実績は8件。今後も積極的に投資し、顧客獲得を進める。



名護 社長